

モールを



散歩して

(6月のごあいさつ)

平成27年6月1日(月)

6月とはいえ、旧暦の4月15日です。梅雨はまだまだこれからでしょう。

近くにイオンモールライカムがオープンして早一ヶ月が経った。歩いて7~8分、タクシーでワンメーターなので、オープンの翌日の日曜日から、毎週行っている。だからもう一昨日の土曜日で6回目になった。ショッピングセンターへ買物に行くというよりは、街へ散歩や食事に行くといった感覚である。

太平洋と東シナ海が見える5万坪を超える敷地に、5階建ての5万坪に近い建物、そこに約250もの店舗が広がり高低をもって存在している。

ハワイやシアトル、ロスアンゼルスなどのショッピングセンターへも行ったことはあるが、国土が広いせいか、こちらの関心が薄かったのか、平面的で店が軒を連ねているという印象が強く残っており今度のモールとは新鮮さや楽しさが異なる。

砂漠のオアシスに作られた庭園がモールの起源だという話をきいたことがある。確かに、暑くて、平坦で、のどがかわいて、旅に疲れた砂漠の中のオアシスは元気を回復させるだろう。人々の興味を引く新しい街が出現するというのは、新鮮さや期待感があり、同質化された現代社会には、新しく再生された、開かれた空間だと思う。

モールの中を歩くのは、散歩、めずらしいものをみるといった感覚である。100もの衣料品店、100ものレストラン、その中に眼鏡、美容室、本屋、銀行などがあり、生活感のある一つの街を感じさせる。誰でも平等に歩いて自然な感じがしている。誰でも入れて私にとっては、主として散歩の場所である。

それは私的なショッピングセンターではなくて、一種公共的な広場や街に通じるのではなかろうか。単なる商業施設ではなく、通り、街なのである。赤ん坊を抱いた夫婦や子供や若者や中年の人やおじいさんからおばあさん、基地の近くの外人も多く、中国人など観光客も多い。自由に買物を楽しみ歩いているといった風である。買物だけが目的というのを超えてもっと自由な気分である。従来のショッピングセンターとは一味違った企業の対応を感じている。

近くにあるプラザハウスは、沖縄というより日本で最初のモールといわれている。イオンモールの延長のようでもあるし、新旧が隣り合わせているのも面白く、歩いてみて街に楽しさと活気を感じた。これがコザの旧市街へもつながればと思う。